

キューピー

——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 9. 1~15. 9. 30>

9月1日

■人口の1%がかかるとされるそううつ病の発症には、細胞内に発生した異常なたんぱく質を修復する仕組みの不調が関係していることを、理化学研究所の加藤忠史博士のグループが解明。(読売・朝日)

9月9日

■「目の成人病」ともいわれ、視野が狭くなり、視力の低下や失明の危険もある緑内障で、これまで40歳以上の30人に1人とされてきた有病率が、20人弱に1人に達することが日本緑内障学会の疫学調査で明らかに。(朝日)

9月10日

■キューピーは弘前大医学部の佐々木甚一教授と共同で、スイートコーンに含まれるフィトグリコーゲンに抗腫瘍効果があることをマウスを使った動物実験で確認。(日経)

9月16日

■心筋梗塞になった人でも、禁煙することにより、心臓に栄養などを送る冠動脈の機能が比較的短期間に改善することが、徳島赤十字病院循環器科の細川忍副部长らの研究で明らかに。(読売・日経)

9月19日

■日本メナード化粧品は、ザクロの濃縮果汁に関節炎を予防する効果があることを発見。(日経)

■パソコンなどのVDT画面を見つめる仕事につく人の4人に3人が「ドライアイ」症状に悩んでいることが、日本眼科医会の調査で明らかに。(毎日)

9月24日

■酒を飲むと顔が赤くなりやすい人が日常的に飲酒の上喫煙していると、膵臓がんになる危険度が、酒は飲むがたばこを吸わない人の10倍になることが、国立九州がんセンター消化器内科の船越顕博医長の調査で明らかに。(読売)

9月25日

■タマノイ酢(堺市)は、玄米を原料とする黒酢の濃縮エキスをラット(大型ネズミ)に長期間投与したところ、大腸がんを予防する効果を確認。(日経)

9月26日

■緑茶に多く含まれる「カテキン」が細胞内のDNAを傷つけ、がんを発症させる仕組みを、三重大医学部の河西正祐教授(衛生学)のグループが究明。(読売)

■動物実験として使われるラット(ネズミ)の体細胞クローンを作ることにフランスの研究者らが成功。(朝日)

9月28日

■胃潰瘍を起すとされる細菌、ヘリコバクターピロリ(ピロリ菌)を薬で除菌すると、胃がんになるリスクが3分の1になるという調査結果を浅香正博・北大教授(消化器内科学)らが明らかに。(朝日)

9月29日

■赤ワインに含まれるポリフェノールが、アルツハイマー病の原因とされるたんぱく質を分解することを山田正仁・金沢大教授(神経内科)らが実験で確認。(朝日)